

文化財だより

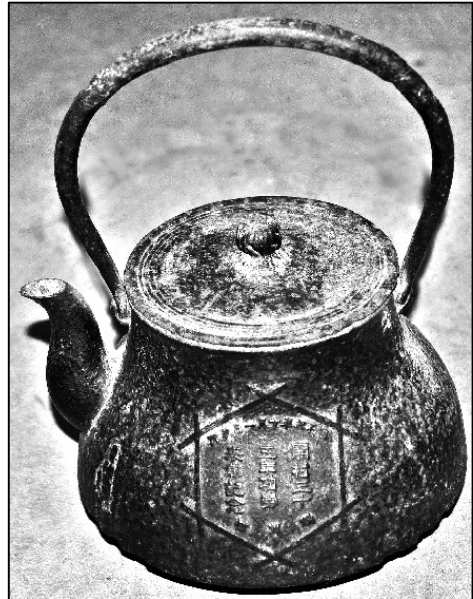
むかわむらめい てつびん
【鶴川村名の鉄瓶】

昭和の御大典記念を伝える

今回は、昭和 3 年に製造された鶴川の鉄瓶についてご紹介します。

鉄瓶とは、ヤカンのような形をした湯を沸かすための道具です。鉄瓶の部品はすべて、伝統的な製法に基づき鑄造されるところに大きな特徴があります。鉄瓶は江戸時代以降、東北地方の南部藩や仙台藩の特産品として盛んに製造販売された経緯があり、現在では岩手県盛岡市や奥州市に生産拠点のある南部鉄器が有名です。

さて、写真の鉄瓶には「昭和三年十月一日執行 開村三十五年功労表彰記念 鶴川村」（表面）、「御大典記念」（裏面）という銘がみえますので、鉄瓶は今から 87 年前に製造されたことがわかります、



【写真】鶴川村銘のある鉄瓶



【写真】鉄瓶の銘文（表面）



【写真】鉄瓶の銘文（裏面）

昭和 3 年は、天皇陛下の即位礼が執り行われる年にあたるため、同年に明治 28 年の開村以来 35 周年を迎えた鶴川村では、御大典記念奉祝会の開催と併せて様々な記念品が制作されたようです。例えば、『鶴川村記念写真帖』は、当時高価であった写真を多数活用して開村以来の歴史をまとめ、青色の錦の表紙で装幀をしたものです。また、『鶴川村政一覧特別版』は、当時まだ珍しいカラー印刷を採用しており、表紙には緑色の縁取りに金の鳳凰と桐の図像が描かれています。

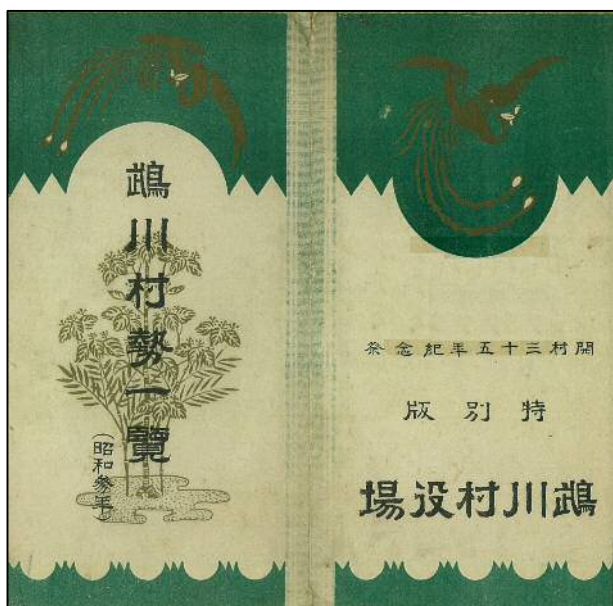
このように、開村 35 周年の記念品には当時の新しい技術を取り入れた華やかな作品がある一方、鉄瓶のように身近な生活用具も大切な記念品に選ばれるあたり、電気・ガスはもちろん便利な家電製品など無い日常を過ごした、当時の人々の力強さがうかがわれます。



【写真】御大典記念奉祝会記念写真



【写真】鷓川村記念写真帖



【写真】鷓川村勢一覽特別版